令和7年度　筑北村河川水質検査　結果一覧

筑　北　村

河川名		東条川	別所川	麻績川	永井川・安坂川合流地点
採取地点		聖南中学校前	平集会所前	赤松集会所前	坂井橋付近
採取日		令和7年7月30日	令和7年7月30日	令和7年7月30日	令和7年7月30日
天気		晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		32.0	30.0	32.0	31.9
水温(℃)		25.4	29.7	30.0	26.2
透視度(度)		62	100以上	74	100以上
色相/臭気		黄色淡・(明)/無臭	黄色淡・(明)/無臭	黄色淡・(明)/無臭	無色/無臭
電気伝導率(mS/m)		22.4	50.6	32.2	18.5
pH	−	7.5	8.7	8.8	7.5
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	0.7	0.6	0.8	0.6
浮遊物質量(SS)	mg/L	12	4	3	2
溶存酸素量(DO)	mg/L	7.5	9.7	8.7	7.6
大腸菌数	CFU/100mL	420	180	230	790
全窒素	mg/L	0.92	0.27	0.48	0.78
全燐	mg/L	0.15	0.023	0.076	0.032
考　察		本調査の結果、東条川及び永井川・安坂川合流地点の大腸菌数、別所川及び麻績川の　pHが高い値を示していた。 大腸菌数が高くなる理由としては、人為的要因(生活排水の流入等)と自然的要因(野生動物の影響等)が考えられる。特に近年は野生動物の生息域拡大や個体数増加が報告されており、河川の大腸菌数にも影響を及ぼしていることも懸念される。 pHが高くなる(アルカリ性になる)理由としては、pHの高い河川は溶存酸素濃度も高いことから、河床藻類等の光合成による自然的要因によるものと考えられる。 総じて過去の検査結果と同様の傾向が見られていた。			

検査項目について

項目名	基準値 (類型:A)	
pH	6.5～8.5	水素イオン濃度を表します。1～14の範囲で、中性の7を中央として数値が小さいと酸性、大きいとアルカリ性です。
生物化学的酸素要求量(BOD)	2以下	生物が水中の有機物を分解する為に必要な酸素の量を計ります。有機物汚濁の指標となります。
浮遊物質量(SS)	25以下	水中に浮遊している物質のうち、孔径1μmの「ろ紙」に捕捉される2mm以下の物質量を表します。
溶存酸素量(DO)	7.5以上	溶け込んでいる酸素の濃度を表します。この酸素量が多いほど、良好な水質の傾向にあります。
大腸菌数	300以下	培地で培養された大腸菌のコロニーの数を計ります。ふん便汚染の指標となります。
全窒素、全燐	—	水中の窒素化合物又はリン化合物の量を計ります。湖沼の富栄養化の原因の一つとも言われ、生活排水や工場排水が主な発生源とされています。